

デトロイトへ旅行される皆様へ

1. はじめに

デトロイトは近年、カムバック・シティとして目覚ましい復興を遂げています。

ダウンタウンやミッドタウンを中心に、若者達によるパブリックアートや音楽が盛んとなり、米国内でも注目度の高い都市となりつつあります。一方で、FBI が発表した 2018 年中の犯罪統計では、人口 10 万人あたりの凶悪犯罪件数（殺人、性犯罪、強盗、加重暴行）が全米ワーストとなるなど、治安が比較的回復してきた近年でも、全米で最も危険な都市の 1 つであることに変わりはありません。

デトロイト市警察の発表した 2019 年中の統計では、凶悪犯罪総件数が前年比 4% 減となっていますが、依然として高い水準で凶悪犯罪が多発しています。

2. デトロイトにおけるエリア別治安状況

(1) ダウンタウン

カナダとの国境となるデトロイト川に面するリバーサイドエリアで、デトロイトのシンボルである GM ルネッサンスセンター、MLB タイガースの本拠地コメリカパーク、NFL ライオンズの本拠地フォードフィールド、市内一の繁華街グリークタウン等が所在しています。

治安は比較的安定しており、日中であれば治安上の大きな問題はありません。一方で、夜間、特に深夜から未明にかけて強盗や銃撃事件等が散発していますので、外出は控える必要があります。また、エリア内を周回する移動手段としてピープルムーバーが深夜まで運行していますが、深夜帯には利用者がほとんどなく、万が一の際に助けを求めることができませんので、深夜の利用は控えて下さい。

(2) ミッドタウン

ダウンタウンの北に位置するエリアで、芸術的なパブリックアートやレストラン、ショップ、デトロイト美術館、NBA ピストンズと NHL レッドウィングスの本拠地であるリトルシーザース・アリーナ等が所在し、現在のデトロイトを象徴するエリアです。ミッドタウンを南北に貫くウッドワード Ave を中心に見所が点在しています。現在、治安が回復しつつあるエリアで、日中、大通りに面し往来がある場所であれば、治安上の大きな問題はありません。

一方で、日中でも人通りの少ない路地、夜間には依然として殺人や強盗事件が発生していますので、注意が必要です。

ダウンタウンを結ぶ移動手段として QLine がありますが、深夜帯についてはピープルムーバーと同様に注意が必要です。

(3) その他エリア

ミッドタウンの外周に位置する廃墟が多く残るエリアです。治安は現在も悪く、殺人や強盗事件など凶悪犯罪の大多数がこのエリアで発生しています。

興味本位で立ち入らず、誤って立ち入ってしまった際は速やかに離れる必要があります。

3. デトロイト市内の事件発生状況

以下のデトロイト市ホームページで市犯罪発生状況を確認することができます。

参考：デトロイト市ホームページ

<https://cityofdetroit.github.io/crime-viewer/>

4. デトロイトを観光する際の注意事項

依然として凶悪犯罪が多発していることを忘れず、以下の点に留意してください。

(1) 治安の悪いエリアには絶対に立ち入らない

ダウンタウン、ミッドタウンを除くエリアでは昼間であっても凶悪犯罪が多発しており、地元のアメリカ人も立ち入りを避けています。これらエリアは廃墟が多い、街並みが寂れた様子、路上生活者が多いなど、雰囲気として感じ取ることができますので、これらの雰囲気を感じた際には、速やかに来た道を引き返すなどしてください。特にミッドタウンは治安の悪い地域と隣接していますので注意して下さい。

地元の若者の中には、観光客を「よそ者」と判断し、自分たちのテリトリーを犯さないよう威嚇してくる者もいます。

(2) 興味本位で廃墟に立ち入らない（廃墟を探さない）

過去には、興味本位で廃墟に立ち入り地元の若者達とトラブルになり、銃を向けられ威嚇された事案もありますので、興味本位で立ち入らないよう注意して下さい。また、廃墟の多くは治安の悪いエリアにありますので、廃墟を探さないよう注意して下さい。

(3) ダウンタウン、ミッドタウンでも深夜の外出は控える

昼間は人通りのあるダウンタウンやミッドタウンでも夜間は閑散となります。同地域で発生している凶悪事件の大多数は夜間、特に深夜から未明にかけて発生していますので、これらのエリア内でも同時間帯の外出は控えるようにして下さい。

(4) 目立つ格好や貴重品をみせびらかすような行為は避ける

ダウンタウンやミッドタウン内でも海外からの観光客は少ない状態です。路上

生活者も多く、声を掛けられることも頻繁にあります。犯罪のターゲットとなりやすい派手な服装や高価な貴金属を身につけることは避け、カメラ等も目立たないように携行してください。

(5) 犯罪に遭った場合は抵抗しない

アメリカでは、誰でも銃を所持している可能性があります。銃を突きつけられた場合は勿論、置き引きや引ったくりなどでも追いかけないよう注意してください。多くの場合、観光客をターゲットとした犯罪は金品を狙ったもので、抵抗しなければ危害を加えられることはありません。

犯罪被害に遭った場合は、相手の特徴、車両ナンバー等を可能な限り確認し、自身の安全を確保した後に911（警察）通報してください。

(6) その他の情報提供

在デトロイト日本国総領事館では、デトロイトを含めたミシガン州及びオハイオ州内の安全情報を提供しています。具体的な地域の情報をお知りになりたい場合は下記メールアドレスまたは電話番号までお問い合わせください。

【メールアドレス】 seikatsuanzen@dt.mofa.go.jp

【電話番号】（日本からは010+1）313-567-0120（内線208）